

授業改善等に関する報告書（2019年後期）

授業アンケートへのフィードバック

平成 28 年度より、学内で使用されている LMS (Lerning Management System) manaba 上で学生が回答した授業アンケート内容に対し、教員がコメントする形式を採っている。

次ページ以下に、それらの「授業アンケートへのフィードバック」をまとめて掲載し、授業改善等に関する報告とする。

[2019（後期）現代生活学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
コミュニティ概論	須賀 由紀子	コミュニティの課題やその課題解決方法の新しい動きなど、現代のコミュニティに興味を持っていただけた方が多かったようでよかったです。「この分野をさらに学習してみたいと強く思った」という嬉しいコメントもありました。少子高齢化・人口減少がすすむ中、コミュニティ維持は大切なテーマです。ぜひ、今後も勉強していきましょう。
グローバル社会	行実 洋一	授業評価が全体的に高い割に、受講生個々の自己評価はそれほど高くない結果となった。受講生が自己達成感が得られるような課題等の工夫を行って対処していきたい。
グレートブックセミナー2 b	須賀 由紀子	皆さんと一緒に古典の言葉に触れて、考えて、楽しい時間でしたね。「美についてここまで深く探求してみたことはなかった」というコメントがありました。それこそ、グレートブックセミナーの醍醐味です。ぜひ、この授業での経験を、ご自身の生き方やものの見方の中に、活かしてほしいと願っています。
現代社会を読み解く d (科学技術と)菅野 元行	菅野 元行	履修生59名中16名の回答に留まり（回答率27%）、総合的な満足度は4.38（5.00が最高点）となりました。昨年度よりも授業内容は工夫し充実させたつもりでしたが、回答率（昨年度34%）は減少したものの、総合的な満足度（昨年度4.33）は微増しました。しかしながら1年生が主体のこの科目において、前期の環境科学概論と比べると回答率の激減（前期の環境科学概論は64%）が明らかです。今後は単位のためだけではなく自らの勉強のために履修科目を選ぶことを心がけて下さい。 回答していただいた方々と、自由記述欄に記載していただいた方々に御礼申し上げます。ほぼ全てを掲載します。「環境科学概論よりも内容を深く学ぶことができたので勉強になりました。」「エネルギーについての理解が深まった。（3名）」「日本や世界の環境についてを深く知れました。」「現代で使用されているエネルギーについての理解が深まった。」「今まで考えられなかった視点から見るができるようになった」「様々な発電の方法やメリット・デメリットについての知識が身についた。」「科学技術と社会のことがよく理解できた。」「 今後も分かりやすい授業を心がけます。
プロジェクト基礎演習 a	菅野 元行	履修生13名中2名が回答し（回答率15%）、総合的な満足度が4.50（5.00が最高点）となりました。昨年度のこの科目は回答者がいなかったため比較できませんが、回答率は他の2・3年生科目と同様に極めて低いものの、回答していただいた方には好評を得られたようです。 自由記述欄に記載していただいた方はおられませんでした。 演習科目では、自分が何をしたいのか、どのような力を付けたいのかを考えて、自発的に取り組み、必要に応じて教員に訊ねる積極性が必要となります。（これらの意欲があれば前に進めます） 今後も意欲ある履修生の力を伸ばすことを心がけます。
家庭経営 c (育児・介護)	高橋 桂子	現状はどうなっているのか、もっとwell-being高く生活するためには、何が課題か、自分の生活経験・生活史に立って発言できることが大事です。皆さん、レポート力があります。そこに課題解決のための建設的で魅力的な「私の提案」ができるよう、講義を通してこれから更に磨いていってください。 高橋
地域エネルギー論	菅野 元行	履修生43名中6名の回答に留まり（回答率14%）、総合的な満足度が4.17（5.00が最高点）となりました。昨年度よりも授業内容は工夫し充実させたつもりでしたが、回答率（昨年度26%）、総合的な満足度（昨年度4.33）いずれも低下したことは残念に思います。一昨年この科目の回答率が41%、総合的な満足度4.47でしたので、他の2・3年生科目と同様にこの二年間で回答率の著しい減少傾向が見られます。 回答いただいた方々には感謝しますが、残念ながら自由記述欄の記載も皆無でした。特に回答しなかった方々には、単位のためだけではなく学習意欲に基づいて科目を履修するよう心がけて下さい。
現代社会を読み解く c (文化と市場)	須賀 由紀子	身近なスポーツの話題から、社会の問題、生活のあり方、市場の役割など考えてきました。とても興味を持ってもらえたようでよかったです。折しもオリンピックイヤーです。毎日スポーツのニュースは流れますので、ぜひ、この授業で知った視点で耳を傾けてみてください。
プロジェクト演習 b	菅野 元行	履修生は8名でしたが、回答者がいなかったためコメントもありません。
プロジェクト演習 b	野津 喬	授業の満足度が4.80、成長を実感できたという項目が5.00であった。また「問題を明確にし、伝えることが身についた」という趣旨のコメントがあったことから、授業目標は達成できたと考えている。

[2019（後期）現代生活学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
女性社会論 b	野津 喬	授業の満足度が4.60であった。また「女性が社会で働くうえで必要な知識が身についた」、「女性と社会のかかわりが理解できた」という趣旨のコメントが複数あったことから、授業目標は達成できたと考えている。また「説明が分かりやすかった」、「様々なデータと関連して学べたのが良かった」、「学生同士で話し合う機会があってよかった」という趣旨のコメントもあったことから、授業の進め方も適切であったと考えている。
メディアプロデュース論	行実 洋一	授業内容については高い評価となった一方で、相対的に受講生個々の自己評価はそれほど高くない結果となった。受講生が自己達成感を得られるような課題等の工夫をしていきたい。
プロジェクト基礎演習 c	野津 喬	授業の満足度が4.75、成長を実感できたという項目が4.75であった。また「プレゼン力が向上した」、「グループワークが多く、就活にも役立つ力が身についた」、「アイデアを出す力が身についた」という趣旨のコメントが複数あったことから、授業目標は達成できたと考えている。また「依頼者から課題をいただいたので、実践的な企画提案ができた」、「一つのことにも真摯に取り組む姿勢が身についた」、「プレゼンに対する緊張感が前よりもなくなって楽しいと思えた」、「達成感がすごく、とても楽しかった」という趣旨のコメントもあったことから、授業の進め方も適切であったと考えている。
プロジェクト基礎演習 d	高橋 徹	プロジェクト科目であるため学生に主体的に課題に取り組んでもらったが、ペースはぎりぎりになったしまったグループもあったため結果的に十分な学習効果が得られなかったと考えられる。ペースをどう考えるかも学習の一部ではあるもの、もう少し強めにペース配分をこちらで示してもよかつた可能性もある。今後はそういった介入を多めに入れることも検討してみる。
ビジネスプランニング	野津 喬	履修者78名の講義において、アクティブラーニング形式の授業を展開するという特殊な講義であったが、授業の満足度が4.66、成長を実感できたという項目が4.64であった。また「社会に出て役立つことが学べた」、「将来の仕事についてイメージできるようになった」、「グループワークで自分の意見を主張できるようになった」、「企画力が向上した」、「プレゼンテーション力が身についた」、「多様な視点が身についた」という趣旨のコメントが複数あったことから、授業目標は達成できたと考えている。また「外部講師の話聞いて理解が深まった」、「グループワークが多くあったのでディスカッションへの苦手意識がなくなった」、「人前で話すことが苦手だったが発表を重ねることで自信がついて緊張しなくなった」、「毎回、丁寧な講義資料を作っていただいて感謝」という趣旨のコメントもあったことから、授業の進め方も適切であったと考えている。
環境思想演習	犬塚 潤一郎	近年、テキストの論理的読解能力低下傾向がありますが、本年度は授業を通じて、その程度が甚だしく思われ、基礎的な段階に戻り、ステップ・バイ・ステップで、確認しながら進めるようにしてみました。結果的には、各自の現状の力の程度が再認識できたことと思います。目標をどのあたりにおいて努力するか、ということが次の課題ですが、自覚・自己意識によるところが大きいと思います。学習努力に応えられるようサポートします。
メディアアート論 b	犬塚 潤一郎	メディアを、単純な情報を運ぶための容器物や機械的なものとしてではなく、人間の認識(物事を捉える能力)や世界観形成に関わるものとして、考えてみると、現代における”写真的なもの”の働きを改めて検討することが必要だと考えられます。当たり前と思えることについて熟考することについては、そのような姿勢が身に着くまでは厄介に思えるでしょうが、大学で学ぶ間に、なるべく深くまでの修得を心がけていただきたいと思います。
地域食料論演習	野津 喬	授業の満足度が4.95、成長を実感できたという項目が4.84であった。また「食について考えることが多く勉強になった」、「プレゼン力が向上した」、「多様な視点を得られた」、「コミュニケーション能力が向上した」、「チームで作業する際に重要なことが分かった」という趣旨のコメントが複数あったことから、授業目標は達成できたと考えている。また「フィールドワークを通じてより理解が深まった」、「人前に立って話すのは得意ではないがこの講義で慣れることができた」という趣旨のコメントもあったことから、授業の進め方も適切であったと考えている。
地域文化形成論	須賀 由紀子	今日的な地域文化形成のあり方、方向性などについて、理論的にどのように捉えることができるのかを、学修していただいたものと思います。この授業で得た知識をもとに、小さくてもよいので、それぞれの身近な地域で、地域のことを主体的に考える担い手になっていただけるとよいと願っています。
ゼミナール	須賀 由紀子	3年ゼミでの様々な取り組みをもとに、これからは、個々のテーマに従って、卒業研究にすすみます。他者に流されずに、自分に自信をもって探求していきましょう。

[2019（後期）現代生活学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
ゼミナール	高橋 徹	学生から教示内容が何の役に立つかわからないという意見があった。これは十分に学習内容の意義が伝えられていなかったことが原因だと考える。今後は、それも含めた教示を行っていく。また、こちらが教示した内容に対して、あえて反対のことをするというのも見られた。これもなぜそうすることが望ましいかの説明が不足してたと考える。今後はそこについても丁寧に説明する。
統計とモデリング	犬塚 潤一郎	学習の前提に違いがあるので、そろって進めざるを得ないことに難しさがありますが、色々工夫したつもりです。全体的に見れば、プログラミングについての理解・姿勢を身につけられたことを幸いに思います。自分には難解、と感じられた方も、この領域への概観は掴まれたのではないのでしょうか。デジタル技術の社会応用には、利用者を徹底的に消費者にしてしまう傾向もあります。PCを「使える」ことが、たんなる「操作」を意味し、「制作・創造」にはつながらなくなって、もう久しいともいえますが、本来、個人の力を広げるためのものだと思います。今後一層、できることの拡張に役立ててください。
プロジェクト基礎演習 b	須賀 由紀子	それぞれのプロジェクトに分かれて、それぞれの課題に取り組んでいただき、とてもよいアウトプットが出せたと思います。市の方も、皆さんのアイディアや感性に感心されていました。今後の展開が楽しみです。ぜひ、今回の経験を、いろいろな意味で、ご自身の今後に活かしていただければと願っています。
フィールドリサーチ a (環境・エネルギー)	菅野 元行	履修生17名中5名が回答し（回答率29%）、総合的な満足度が3.80（5.00が最高点）となりました。昨年度に比べて、回答率（昨年度50%）、総合的な満足度（昨年度4.50）ともに大きく減少しました。授業自体は昨年度と同様に進行しましたが、総合的な満足度が減少した原因として1名が2とした（他の4名は5と4）ことが主因と考えられます。また、授業時間内に別の科目の課題を作成していたことを注意したこともありました。自由記述欄に記載していただいた方々に御礼申し上げます。すべて掲載しますが、的確に授業の狙いを捉えていたことがよく分かります。「パワーポイントの作り方を詳しく学びました。」「自分で環境のこことについて調べ、まとめたことによりより理解することが出来た。」「パワポの発表を通して、色々な人の環境問題のことを聞いて、その問題について詳しく知れてよかった。」「自分で調べたりパワーポイントを作る力が身についた。色々な人の発表を聞いて様々な環境問題について知ることができた。」「演習科目では、自分が何をしたいのか、どのような力を付けたいのかを考えて、自発的に取り組み、必要に応じて教員に訊ねる積極性が必要となります。（これらの意欲があれば前に進めます）今後も意欲ある履修生の力を伸ばすことを心がけます。
生活産業史	野津 喬	授業の満足度が4.82、成長を実感できたという項目が4.73であった。また「生活産業の現状が良く理解できた」、「生活に関係ある産業について学ぶことで社会に出て必要な知識が身についた」という趣旨のコメントが複数あったことから、授業目標は達成できたと考えている。また「グループワークを積極的に取り入れていてよい勉強になった」、「とても分かりやすくなった」、「いつも説明が分かりやすかった」という趣旨のコメントもあったことから、授業の進め方も適切であったと考えている。
現代生活学	犬塚 潤一郎	知識というものが、自分の生と結びついたものであること。その意識が近年、学生の皆さんにおいて急速に薄れているように感じられることがとても気がかりです。「現代生活」を考えることは、知識を意味付け(自分の現実との関係)において受け取ることなのですが、そのような姿勢が遠いものになっている方々も含め、どう講義してゆくかは近年の課題です。社会を考えてゆくことは、興味のあるだけではなく、どう生きてゆくかということに基づくことですが、その姿勢のシフトがまず必要な方々も多いとして、話題の工夫もしてきましたが、それ以前の問題もまだありそうに思え、一層の工夫が必要と考えています。
自立生活論 b (消費者)	野津 喬	授業の満足度が4.72、成長を実感できたという項目が4.58であった。また「消費者として必要な知識が身についた」、「自立した生活を送るために必要なことが学べた」という趣旨のコメントが複数あったことから、授業目標は達成できたと考えている。また「グループワークを楽しみながら、高めあひながら頑張ることができた」、「毎回わかりやすく面白かった」、「(講義資料とは別に配布される)新聞記事でいろいろな話題を知ることができたのが良かった」という趣旨のコメントもあったことから、授業の進め方も適切であったと考えている。

[2019（後期）現代生活学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
環境マーケティング論演習 a	犬塚 潤一郎	課題について調べ、考察されることをまとめ、わかりやすく発表する、という基本的な手順を踏むことが、例年の受講者に比して、相当に未経験なままの方々が多きことに対する判断が、遅れてしまったことを反省しています。授業にあらかじめ想定・設計されている到達目標よりも、違ったところに水準設定をし直すことがより早い時期に必要なだったと思っています。授業期間内で未達の分を取り戻す、のような進行を当初試みましたが、先のことよりはまず手前から行ってゆくことが、今期は必要だったと思っています。それでも、社会が求める水準は変わりませんので、各自の能力育成の向上への努力を一層続けていただきたいと願います。
ゼミナール	菅野 元行	履修生は10名でしたが、回答者がいなかったためコメントもありません。
ゼミナール	野津 喬	授業の満足度が4.33、成長を実感できたという項目が4.83であった。また「卒論のテーマを明確にできた」というコメントがあったことから、授業目標は達成できたと考えている。